

ビオトープだより第60号

会員・BAより ビオトープに関する情報を提供します。



1. 生物多様性ポテンシャルマップを活用したビオトープの提案

主席 BA (株)鈴鍵 日高庸次

「あいち生物多様性ポтенシャルマップ」とは？

愛知県が2010年に作成した、県内の生物多様性保全における重要な場所を示した地図。



県域全体の10万分の1の地図に、実際に指標種の生息が確認されている場所のほか、森や草地、水辺などの分布や広さといった環境条件から、指標種のすみかとして適している場所（生態系ネットワークの形成において大切と考えられる場所）を予測して示しており県民や、事業者、NPO、行政といった地域の様々な主体が目標を共有するための基礎資料です。

地域の様々な主体がマップを確認しながら活動や事業を行うことによって、これまで個々に行われてきた取り組みが一定の方向に向かい、生態系ネットワークの形成により高い効果が発揮され、マップの活用方法に示された手順や考え方に基づき検討を行うことによって、事業や活動を生態系ネットワークの形成に役立てることができるようになっています。

（あいち生きものステーションより引用）

ポテンシャルマップ活用の基本ステップ

ビオトープを計画する前に、対象地のポтенシャルを確認することから始めます。無理な環境を作るのではなく、自然の力に逆らわない設計が可能になります。

場所の確認：マップ上で、計画地ではどのポтенシャル（樹林、草地、湿地など）が高いかを確認します。

目標種の設定：その環境を好む、地域の在来種（メダカ、トンボ類、特定の蝶など）を目標に定めます。

植生（植物）の選定：その環境に適した「地域性種苗（その地域に自生する遺伝子を持つ植物）」を選びます。

ポイントは「人間が呼びたい生き物」ではなく、「その土地が本来呼べるはずの生き物」のための場所を作ることです。



「生態系ネットワーク」を意識する

計画するビオトープは孤立しているのではなく、近隣の森や川、公園をつなぐ「飛び石」の役割を果たします。マップを見て、近くの緑地（コアエリア）からどんな生き物が移動してきそうか、想像して設計します。



この様な提案は、ビオトープ創出の際には大変重要なポイントとなります。皆さんも各地区的ポテンシャルマップの特性を活かした提案をして、ビオトープを増やして行きましょう。

以上